

講義レジュメ

講 師 是住 久美子

内容・テーマ

図書館における市民協働期 日 2019年 6月 25日

0. はじめに

<自己紹介>

同志社大学経済学部卒業後、企業のシステムエンジニア、草津市立図書館臨時職員を経て、2003年4月から京都府立図書館に勤務。2011年から2年間、国立国会図書館関西館文献提供課に勤務。2016年から京都府立図書館情報サービス課長を務める。2018年3月同志社大学大学院博士前期課程を修了し、修士号（政策科学）と地域公共政策士の資格取得。2018年4月より田原市中央図書館勤務（副館長）。2019年4月より現職。

1. 京都府立図書館の活動

- ・ 地域コミュニティとの協働で始まったウィキペディアタウン
まちの情報を住民たち自らウィキペディアに編集し、世界へ発信するイベント
地域のアクターとの共創、図書館の地域資料・レファレンスの活用
- ・ 庁内ベンチャーへの挑戦
図書館は知の集積場としての魅力を高め、人が集い、交流し、学び合い、議論する場を構築し、新しいものを生み出す活動を応援する場所へ
→ナレッジベースの設置
参考：伊丹市立図書館ことば蔵、長野県立図書館信州・学び創造ラボ
- ・ シラベルワークショップ
シラベル：調べることで得た“知”をラベル（見える）化し、知恵・知識として身に着け、情報過多な世の中から適切な情報を見出す目利き力を持つこと。
行政・NPO・大学・企業に所属するメンバーによるチームシラベル結成。シラベルワークショップを通じて、協働調査を体験してもらう。

2. 田原市図書館の活動

- ・ 図書館フレンズ田原（NPO たはら広場）
図書館の無かった旧田原町での図書館建設運動に関わったメンバーが設立。伊万里市を理想として「図書館フレンズ田原」という名称に。
リサイクルブックオフィス、かぶ会議（月に1回館長室で開催・誰でも参加できる企画会議）
市民提案型委託事業「田原の昔ばなしを伝える紙芝居とデジタルアーカイブによる渥美線機銃掃射の前日物語～」
- ・ 元気はいたつ便
ボランティアと一緒に高齢者福祉施設へ出向き、回想法や元気プログラムを実施
- ・ 図書館でウォーリーを探せ！イベント

出版社、書店、図書館とのコラボレーション企画

- ・ 棚の魅力化、ゲリラ展示

3. 協働を進めるために

- ・ 協働：対等な立場で協力、連携すること
 - ・ 市民に図書館のサービスが伝わっているか
固定化した旧来の図書館のイメージ
 - ・ ファシリテーター、コーディネーター、プロデューサーのスキル
 - ・ まちの課題はまちに出ないと分からない
まちの課題解決に取り組んでいるプロジェクトにライブラリアンとして参加し、役割を果たす。エンベディッド・ライブラリアン
 - ・ 協働はなぜ必要か
少子化、縮小社会、地域の危機
→持続可能な地域づくりのためには行政のみならず社会全体が公共性を持つ必要がある。
地域アイデンティティの強化
- 住民自ら様々な情報を収集し、多様な人たちと協働しながら地域づくりを進める必要
- 図書館の役割はますます重要になる

〔参考文献〕

鎌田均（2018）「エンベディッド・ライブラリアンにみる図書館環境の変化」『情報の科学と技術』68(1)、14-8

是住久美子（2018）「図書館のサービスイノベーションの引き金となる、ウィキペディアタウン（特集 ウィキペディアタウンでつながる、まちと図書館）」LRG（ライブラリー・リソース・ガイド）25、16-35

是住久美子（2015）「ライブラリアンによる Wikipedia Town への支援」『カレントアウェアネス』324、2-4